# 歴史に於ける普遍關係

丹羽正義

歴史に於ける普遍關係といふものは如何なるものであらうか。

歴史に關する定義は諸家互に其見を異にしその間何等共通點なきが如くなれどもその差異なるや科學とは如何なるものかといふ立場の相違に基く。リッカートに從へば科學的認識は改造であり單純化である。無限に多樣な內容をもつ經驗世界を有限な吾人の力を以て其儘認識するといふことは到底不可能である。科學的研究といふことは無限に多樣な經驗を其目的に應じて單純化することである。然してこの單純化の形式なるものは一般化と個性化との二つに分たれる。思惟の立場から全經驗を統一して見たものが吾々の經驗界であつて一般化といふのはこの純粹思惟の統一を更に何處までも進めて行くことであり、個性化といふのは經驗界を原經驗の形に再び構成して見ることである。前者は異質的なる經驗を一般的法則によつて統一しやうとするものであつて種々なる作用の統一なる人格的經驗に就い

ては種々なる作用の差別を否定して、何の作用の背後にも横はる共通の反省的立場に立つてすべてを統一しやうとするのである。かくしてできるものが物體界であつて經驗界を不變的性質を具へた物の同時的存在の體系と見るのである。從つて一般化の徹底は最も普遍なる法則樹立にある。之に反し後者は經驗界を絕對意志の直接の對象界との關係に於て見たものであつて人格的經驗に就いて種々なる作用の差別を肯定して各經驗を一あつて二なき個性をもつた實在として見るものである。すべて一つのものが唯一と考へらるゝには全體との關係に於て考へられねばならない。個性化とは一々の經驗を價値の實現されたものとして見ることである。然して一般化の總和は自然なる概念によつてあらはされ個性化の總和は文化なる概念によつてあらはされる。かくて經驗科學は學的方法によつていへば一般化的科學と個性化的科學となり窮極目的によつていへば法則科學と價値科學となり對象によつていへば自然科學と文化科學となる。かくの如き立場に立て考ふれば歷史は經驗的事實を一あつて二なき個性をもつた實在とする科學なるに歸一する。如何なる人も死んで灰となつてしまへば物體としては何の人も變らぬであらうがかゝる見方をして成立した歷史なるものはあり得ない。或る時代の出來事と

か或人の行爲とかいふものを合目的的に見て行く時、歴史的實在が生ずる。歴史の目的は或一つの人物とか事件とか時代とかいふものゝ個性をあらはすに存する。歴史は過去の事實を取扱ふといふが嚴密には過去を今となすものである。死せりと考へられるものを再び生かしむるものである。從て歴史學の學的方法は個性化であり對象は價値に係らしめられたる客觀―文化である。

歴史學がかくの如きものなりとするならば歴史に於ては普遍關係の研究といふものは認められ得ぬことは勿論であらう。

かの文化科學に於ける普遍關係といふものは夫々の價値的見地から統一せられた對象の價値的關係の上に於ける一般的關係であつてかゝる普遍關係の研究卽文化現象の一般化を目的とする科學は成立するといふ說には論理の矛盾がある。

恰も自然科學に屬する鑛物學、植物學、動物學、生物學、生理學、化學、物理學等の科學がその研究の對象として居る物體現象こそ夫々異り、從つて尙物體なるものゝ性質の中には直接經驗の異質的性質を含んでゐて之に依て經驗を分割し統一する間は經驗の異質性は徹底的に除去されぬとはいへ、之等の科學すべてが求めて居る知識の性質は全然同一種のものであつて、皆それ〴〵の物體現象に於ての一般的法則を求

めその種々の區別は先驗的假定の性質、卽經驗を統一する目的態度の相異によるのではなく只その學的假定の簡單とか複雜とか抽象的とか具體的とかいふ如き差別である如く價値に係はらしめられた客觀を認識する文化科學に於ても政治學、經濟學等夫々の科學はその研究の對象として居る文化現象こそ夫々異り、從てその文化なるものゝ性質の中には異質性を制約し普遍關係を存せしむるとはいへ、先驗的假定卽經驗を統一する目的態度に於て相異あるとなく、從つて文化科學に於て普遍關係の認識を目的とする科學の存立を認め、もしくは文化科學に於て普遍關係の研究を認むることはできないはづである。只文化科學は經驗の個性化を目的とする爲にまづ最も經驗を異質的にしなければならぬ。然して異質的にするといふことは價値にかゝはらしむることである。然し乍らその係はらしむる價値が他の價値の部分となる如き場合經驗の個性化は極致に達し得ざるのである。法律學、政治學、經濟學等の如きその學的假定とするところの價値は特殊的のものであつて、從つて之によつて係らしめられるものは個性化の極致に達せしめられたるものとはされ得ない。如何に經驗の異質性が限定せられたりとするも、法律とか政治とか經濟とかが特殊文化である限り經驗の異質性は之によりて制約せられ從つてその特殊なる

に應じて抽象的關係が殘され個性化の極致に達するとを得ない。尙一層完全なる個性化に達するには更にかくの如き抽象的關係を除去して一層具體的なる關係に進まねばならぬ。學的アプリオリの價値が普遍的ならざるだけ經驗の異質性を特殊的に制約することゝなり、從てそれだけ多く抽象的關係が存するのである。卽價値が普遍的ならざる時は、その價値に係はらしめられて個性化せらるゝ經驗についていへば、それだけ個性化が普遍的ならざるのであつて、換言すれば抽象的なるものである。故に文化價値が普遍的となるに從ひ經驗の個性化は特殊的から普遍的に進み抽象的關係は具體的關係になつて行くのであつて、文化現象の間に普遍關係が存するの故を以てこの普遍關係の研究を目的とする科學を文化科學の中に認めるのは論理の矛盾である。文化科學はあくまで個性化を目的としその方法は個性化的方法であらねばならぬ。只對象とする文化現象が特殊價値によるものがあるが爲に抽象的關係が存しこの故に抽象的關係の考察がさるゝといふに止まる。然してこの普遍關係が存する以上、普遍關係が明かにされずして個性は明かにされざるも只その普遍關係を明かにするのは普遍關係そのものゝ爲に明かにするにはあらずして個性を明かにするが爲である。說明の基礎であつて說明の問題ではない。

この意味に於て法律學、政治學、經濟學等が法則的研究を含むといふのは嚴密なる考察ではなからう。その學的アプリオリが特殊的價値なるが故に普遍關係の存すること多く、從つてその學問研究にこの普遍關係を明にするを必要とする場合多しといふに過ぎない。然してこの普遍關係は價値が普遍的となるに從ひて存せざるに至り最も普遍的なるものにありては何等かゝる關係は存せざるに至るのである。

然らば歷史に於て普遍關係は存し得るであらうか。歷史學は如何なる學的假定を有するか。その先驗的假定卽經驗を統一する目的態度はもとより、個性化的假定に立つものであるが、その學的假定卽歷史學のアプリオリなるものは如何なるものか。獨立の科學には他の科學によつて還元せられざる獨立のアプリオリがある。之なくばその科學の獨立はなくなる。種々なる科學の別はその學的假定の簡單とか複雜とか抽象的とか具體的とかによつて生ずる。經濟學は經濟的文化現象を政治學は政治的文化現象を夫々研究の對象とする。然し歷史學なるものは、經濟とか政治とかいふ一つの立場によつて異質性を制約せられたる現象を對象としない。文化一般を對象とする。卽一文化科學としての歷史學は經濟學が經濟的文化現象を、政治學が政治的文化現象を夫々對象とするに對し文化現象一般を對象とする。

歴史學の學的アプリオリは文化價値一般である。一文化科學としての歴史學は所謂普遍史であつて所謂特殊史ではない。但し普遍史特殊史といふ名稱の如きは嚴密にはもとより許されざるものである。かくの如くんば個性化的科學卽歴史學たるのである。歴史學なるものは經驗の個性化的認識であつて個性化的認識なるものゝ對象は文化現象のみと限らるゝが故に其對象は文化現象のみとせらるゝに過ぎずして文化現象の研究は歴史學のみに限らるゝものではない。之を要するに歴史學の學的アプリオリ文化價値一般は最も普遍的なる價値にして之によりて個性化は極致に達せしめらるゝに至る。かくの如く考ふる時もはや歴史學に於て普遍關係は存せざるを見るのであつて、從つて歴史學に於ける普遍關係なるものはいかなる意味に於ても一學的方法に於ても對象の性質に於ても存立を有し得ないものとなる。

然も尙歴史學に於て普遍關係が考慮されることあるのは如何なる意味であらうか。

歴史學の學的アプリオリ文化價値一般といふものはいかなるものであらうか。特殊文化價値といかなる關係を有するであらうか。經驗の推移には二種あると考

へられる。一つは同一の立場に基く經驗の發展である。卽一つのアプリオリに基く發展である。他の一つは立場の推移である。一つのアプリオリから背後の大なるアプリオリに移り行くことである。例へば物理學に於て種々の物理學的法則が或一つの根本的法則によつて統一せられるといふ如きは之まで個々獨立と考へられたるものが或一つの一般的なるものゝ中に包攝せられることであつて此場合に於ては個々の中に含まれてゐた意味、換言すれば個々の思想を構成した根柢的アプリオリの性質に於ては何等の變化もない。只その進步完成と見るべきである。然し化學と物理學との場合の如き二つのものが異つたアプリオリに立つに拘らず其一つが其の他の中に部分として統一せられるといふことができる。この關係は知識體系の意味といふものによつて考へられねばならぬ。經驗的知識は一つのアプリオリの中にあつてはこのアプリオリを全體として統一せられアプリオリとアプリオリの間にあつては抽象的なるものは具體的なるものに部分として包攝せられて行きかくて次第に完成に進むのであつてこれが知識體系の發展である。

かく考ふる時歷史學の對象文化一般はあらゆる特殊文化の全體系である。抽象的なる立場は具體的なる立場を背後の全體として漸次高次元的に發展し然してそ

の最も具體的なる立場を立場とするのが歴史學なるを以て、歴史學はあらゆる特殊文化科學の立場が高次元的にその中に於て成立する立場を立場とすることなり從つて漸次高次元的に進んで行く特殊文化の全體系は歴史學の對象なる文化一般であるといふことゝなる。即特殊文化科學は特殊文化現象を全體として認識するものであるに反し歴史學はそれを部分として特殊文化現象を文化一般の中に包攝するものであつてかくて歴史學の對象文化一般は各特殊文化の全體系である。たとへば經濟學に於て經濟文化現象が經濟文化價値によつて體系づけられるとき、それはその學問の完成といふことであつて未だ歴史とは關することなきも經濟文化價値が部分として最も背後の具體的全體の中に歸一して行くとき、それ等は歴史の對象となるのである。即一つの經濟文化現象は經濟學に於ては經濟文化價値により經濟文化體系中に包攝せられ歴史學に於ては文化價値一般により經濟文化價値による體系を部分とする文化一般の體系中に包攝せられる。故に經濟文化現象は經濟文化價値により全體系を作らるゝ限り、その價値の特殊なるに制約せられて尙普遍關係を存するも、文化價値一般の立場によりて包攝せらるゝ時經濟文化現象も、もはや經濟といふ特殊の價値に制約せらるゝことを除去せられて爲に普遍關係を存

せざるに至る。

歴史學に於て普遍關係が存する如く考へらるゝのは、歴史學の對象文化現象一般が各特殊文化現象の全體系であり、從つて文化價値一般の立場を離れて特殊文化價値の立場に立つ時、普遍關係が存する如く考へらるゝを以てであつてそれは立場の混同である。

故に歴史の研究に於て文化一般の體系を考ふる時それが特殊文化の全體系として如何に各特殊文化の體系の推移を包攝して居るかを注意しなければならぬ。もし之を怠る時は或は歴史學そのものゝ立場を失つて、歴史學そのものゝ本質をも之を誤るに至ることなしとしない。文化一般の體系中に於ていかなる特殊文化が最も著しき位置を占めて居るか。部分部分によりて著しき位置を占むる特殊文化を異にし、それに應じて研究に異る注意を要しやう。文化一般の體系中に於て政治的文化が著しき位置を占むる時、政治文化價値本質上の普遍關係を以つてその普遍關係は政治文化價値の立場によりて生ずるものなるを反省せず、歴史研究にこの普遍關係を取入れ以て歴史は普遍關係を研究せざるべからずとするに至るのである。

歴史に於て普通時代を區劃する。その根據を文化體系中に於ける特殊文化の推

移に置くを以て最も根本的なるものとする。歴史の對象文化一般は特殊文化の全體系なるを以てこの全體系中に於ける特殊文化の推移に基く區劃は全體系を區劃する根本的意味を具するものといへやう。かゝる意味の時代區劃は上述の立場の混同を反省する基準ともなるものである。（完）